

目次

第22回研究発表大会のお知らせ	1p	委員会報告	10p
第22回研究発表大会プログラム概要	2p	学会からのお知らせ	11p
第22回研究発表大会プログラム	3p	学会後援行事等のお知らせ	11p
大会優秀発表賞、ポスターセッション賞、機器展示	10p	事務局からのお知らせ	11p

第 22 回研究発表大会のお知らせ

大会実行委員会 委員長 貞広 幸雄

第 22 回地理情報システム学会研究発表大会は、2013 年 10 月 26・27 日（土・日）、慶應義塾大学三田キャンパスにて開催されます。本年度も通常の研究発表（講演、ポスターセッション）に加え、多彩なセッション企画（ワークショップ、ハンズオンセッション、チュートリアルセッションなど）などのプログラムを予定しております。皆様、奮ってのご参加をお待ちしております。

研究発表大会の詳しい内容につきましては、後述のプログラムをご覧ください。

但し、掲載されておりますプログラムは 8 月上旬現在のものであり、学会当日までに変更される可能性があります。最新のプログラムにつきましては、学会ホームページ及び当日の大会会場における掲示をご覧ください。

日時 2013 年 10 月 26 日・27 日（土・日）

- 受付開始時間は、1 日目が午前 9 時 00 分、2 日目が午前 8 時 30 分です。初日朝は、受付が混雑いたしますので、午前中の講演者はお早めにご来場のうえ、受付をお済ませ下さい。（当日受付フリーの事前登録が便利です）
- 各口頭発表の持ち時間は発表 15 分、質疑 5 分です。時間厳守をお願いいたします。また講演者は、セッション開始前に会場にて機器動作確認などの準備をお済ませ下さい。
- ポスターセッションは 2 日間を通じて実施されます。
1 日目 11 時 20 分～13 時には、ポスター紹介セッションとして、発表についてそれぞれ 3 分程度の簡単な説明をお

願い致します。

場所 慶應義塾大学三田キャンパス西校舎 1・2 階
〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

交通アクセス

- ・田町駅（JR 山手線／JR 京浜東北線）徒歩 8 分
- ・三田駅（都営地下鉄浅草線／都営地下鉄三田線）徒歩 7 分
- ・赤羽橋駅（都営地下鉄大江戸線）徒歩 8 分

懇親会会場

南校舎 4 階 「ザ・カフェテリア」

懇親会費： 事前登録 5,500 円（当日受付 6,000 円）

大会参加費（講演論文集の CD-ROM 代金を含む）

正会員または賛助会員枠の参加者：

事前登録 3,500 円（当日受付 4,000 円）

学生会員： 事前登録 3,000 円（当日受付 4,000 円）

非会員（一般および大学生以上）：

事前登録 6,000 円（当日受付 6,000 円）

高校生以下、70 歳以上：

無料（必ず年齢を証明するものをご呈示ください）

事前登録

ホームページ上の事前登録申込書に必要事項をご記入の上、代金を振り込んで学会事務局まで申込書を FAX にてご送信下さい。予約締切は、9 月 15 日（日）です。

※期日までに入金が確認されない場合、事前受付はキャンセルとなります。

第22回研究発表大会プログラム概要

10月26日(土)

	会場A	会場B	会場C	会場D	会場E	会場F	ハンズオン会場	ポスター会場
9:30-11:10	企画セッション(1): レジリエントな国土・地域社会の構築のための地理空間情報の活用	歴史・考古	景観 (9:50開始)	システム構築1 (9:50開始)	自然・環境1 (9:50開始)	防災1		ポスター展示
11:20-13:00	企画セッション(2): 災害対応におけるGISの利活用の新たな可能性を探る	企画セッション(7): 学校教育におけるGIS教材の共有化	解析理論	システム構築2	自然・環境2	自治体・市民参加	ポスター紹介セッション	コアタイム
14:30-16:10	企画セッション(3): 災害デジタルアーカイブと空間情報 ～東日本大震災の被災地による被災地のためのアーカイブ支援～ 1	企画セッション(8): 空間解析入門	移動1	システム構築3	自然・環境3	データベース構築1	ハンズオンセッション(1):都市計画とFOSS4G	ポスター展示
16:20-18:00	企画セッション(3): 災害デジタルアーカイブと空間情報 ～東日本大震災の被災地による被災地のためのアーカイブ支援～ 2	企画セッション(9): 時空間データの形態変換の最前線	移動2	ネットワーク空間分析	可視化	データベース構築2		
18:30-20:30	「ザ・カフェテリア」にて懇親会(会長挨拶, 表彰式等)							

10月27日(日)

	会場A	会場B	会場C	会場D	会場E	会場F	ハンズオン会場	ポスター会場
9:00-10:40	企画セッション(4): 学生必見! オープンデータで本気で日本を動かそうとしてる奴ら—起業家から元役人まで—	施設配置1 (9:20開始)	商業・経済	地域分析1	データ精度1	防災2 (9:20開始)		ポスター展示
10:50-12:30	企画セッション(5): オープンデータと自治体GIS	施設配置2	データ取得	地域分析2	データ精度2	防災3	ハンズオンセッション(2): PythonでGIS	
13:40-15:40	企画セッション(6): 産学連携によるマイクロジオデータの普及と利活用の可能性	企画セッション(10):GISCA	観光	地域分析3	データ精度3	防災4		
16:00-16:20	閉会式(優秀発表賞の表彰を含む)							

第22回研究発表大会プログラム

GISA大会発表申込書に依る
(発表者は最初に記載 敬称略)

第1日目:10月26日(土) 会場A

9:30-11:10 企画セッション (1): レジリエントな国土・地域
社会の構築のための地理空間情報の活用

オーガナイザー: 小荒井 衛

我々が生きる国土・地域社会には、様々な攪乱の要素がある。地震・大雨・台風・高潮・津波等のような自然災害、地球温暖化などの気象変動、エネルギー資源の枯渇などがあげられる。

こうした攪乱を受けた結果、人口減少、経済活動の減退、生態系サービスの劣化等が生じ、環境・社会・経済の持続性に悪影響を及ぼす。

これらの攪乱に対して「しなやかに立ち直れる強さ」を備えた国土・地域社会の構築には、土地や生活者を取り巻く環境の変化を的確にモニタリングし、なお、攪乱を受け入れることのできる受け皿や立ち直れる潜在力を分析する技術が大事になってくる。その技術とは、昨今の情報通信技術の発達を背景にした地理空間情報の活用、分析技術に繋がる。

本セッションでは、「レジリエント」な国土・地域社会の構築には、その土地や生活者が持つ潜在力や復元力を正確に分析・評価する技術が大事であるという基礎認識に立ち、地理空間情報を活用分析した国土・地域計画の可能性を海外及び国内の事例を、紹介を交えてディスカッションするものである。

11:20~13:00 企画セッション (2): 災害対応におけるGISの
利活用の新たな可能性を探る

オーガナイザー: 畑山 満則

防災GIS分科会では、これまでに災害時のGISを用いた支援活動を展開してきた。

被災地で活動するとGISを利用すれば効果的と思われる場面に多々出くわすが、その時点では支援活動を行う人材を集めることが難しい。

しかしながら近年では、フリーソフトやオープンデータが整備されつつあり、これによりインターネット上での支援活動も積極的に行われるようになってきた。

そこで、事前にGISを利用できる課題について議論することで新たな災害対応支援の可能性について探る。

14:30~18:00 企画セッション (3): 災害デジタルアーカイブと
空間情報~東日本大震災の被災地による被災地の
ためのアーカイブ支援~

オーガナイザー: 長坂 俊成

東日本大震災では、多くの被災映像等が記録されアーカイブされつつある。災害のデジタルアーカイブにおいては、映像等の背景情報または関連情報として空間情報や位置情報が利用されるものの、空間情報自体がメインコンテンツとしてアーカイブの対象となるという発想がない。

そこで、映像コンテンツの位置参照情報としての空間情報の在り方に加え、災害の記録と検証・伝承等における空間情報自体のアーカイブの構築と運用や、教育や地域振興等における利活用のあり方(戦略と方法、流通のためのメタデータやAPIの標準化、2次利用のための著作権処理等の法制度、推進体制における官民協働、持続的なアーカイブ活動のための財源確保策等)を巡り、東日本大震災の実践事例や課題を踏まえて、国、被災自治体、研究機関、大学、NPO、民間事業者等をパネリストとして討論する。

第1日目:10月26日(土) 会場B

9:30-11:10 B-1: 歴史・考古

☐ 西南関東地域における縄文時代の遺跡立地選択

加藤 晋

☐ 大阪・梅田にみる都市の近代化

西本 貴洋, 吉川 眞, 田中 一成

☐ 考古学における情報共有の試み

市川 創

☐ 史料に基づく高松の景観復元

高橋 良尚, 吉川 眞, 田中 一成

☐ 明治初期の村ポリゴンデータの作成とその分析

奥貫 圭一, 溝口 常俊, 森田 匡俊, 服部 亜由未,
平松 晃一

11:20~13:00 企画セッション (7): 学校教育におけるGIS教材
の共有化

オーガナイザー: 酒井 高正

以下のような3部形式を予定している。

【第1部】「2013年度初等中等教育におけるGISを活用した授業に係る優良事例」表彰式

本学会が主催し教育委員会の責任において審査を行う上記の表彰事業について、「国土交通大臣賞」、「地理情報システム学会賞」、「毎日新聞社賞」の受賞者を招き、表彰式を執り行う。

【第2部】優良事例の発表会

GISを活用した授業を実践している事例について上記の各賞を受賞された教員の方々から、その内容をご紹介いただき、他の学校での実践の可能性等について探る。

【第3部】GIS教材の共有化に関する小シンポジウム

各地で様々な関係者によって取り組まれている学校教におけるGISを活用する実践については、情報を共有し連携を深めていくことが必要である。ここでは、GISを活用した教材の共有化をテーマに、小シンポジウムを行う。

パネリストにはNPO「伊能社中」、GIS教育フォーラム関係者などを予定している。

14:30~16:10 企画セッション (8): 空間解析入門

オーガナイザー: 貞広 幸雄

ビッグデータの急速な普及に伴い、空間データの解析に対する需要が高まってきている。

空間解析手法はこれまで、地理学や統計学等、様々な分野で開発され、利用されてきている。

しかしながら、分野間の情報交換は必ずしも十分ではなく、個々の手法の認知度は必ずしも高くはないというのが実情である。

そこで本セッションでは、空間解析手法の幅広い教授を行うことを目的とし、これまでに開発されてきた様々な手法の背景、概略、適用例などを、数名の講師によるレクチャーで、空間解析を専門としない研究者にも分かりやすい形で紹介する。

16:20~18:00 企画セッション (9) : 時空間データの形態変換の
最前線

オーガナイザー : 堤 盛人

時空間データの形態変換と形態の効率化は、時空間データを用いる
誰しもが直面する極めて一般的な課題である。

前者は、面補間とも呼ばれ、異なるデータセットを用いる際にしば
しば分析者を悩ます問題への解決方法を提示するものであり、例えば
市町村別人口データとメッシュ別緑被率データの分析にあたっての
集計単位の統一や、地価調査データと測定局毎の大気汚染のデータを用
いた分析にあたってのポイントデータの位置の統一、道路リンク毎の
交通量データと交通事故発生地点の分析にあたってのデータの形態の
統一など、その適用場面は多岐にわたる。

一方、後者は、サンプリングデザインとも呼ばれ、そもそものデー
タ観測の効率化を支援するものであり、厳しい財政状況下において各
種統計調査の費用削減や場合によっては調査そのものの中止が求め
られる中で、必要不可欠な研究である。

本セッションでは、特に前者に焦点を当て、時空間データの形態変
換に関するこれまでの研究の概要を分かりやすく紹介するとともに、
発表者らによる最新の研究についても紹介する。

第1日目:10月26日(土) 会場C

9:50-11:10 C-1: 景観

- 距離知覚に着目した夜間景観の分析方法
堤 博紀, 田中 一成, 吉川 眞
- BIM と GIS の連携による景観デザインに関する研究
藤澤 範好, 宮崎 隆昌, 中澤 公伯
- 街路におけるシークエンスと隙間空間
中山 雅淑, 田中 一成, 吉川 眞
- 市街地の緑環境と景観分析
村野 大智, 吉川 眞, 田中 一成

11:20-13:00 C-2: 解析理論

- メッシュ統計データを用いた都市の拠点抽出手法およびツールの
開発
石井 儀光, 阪田 知彦, 雫石 和利, 杉木 直
- 隣接関係に着目した土地利用の時空間分析
水谷 千亜紀, ロナルド エストケ, 村山 祐司
- 居住者の時空間分布に基づく地域間距離の都市モデルへの適用
村上 彩夏, 大佛 俊泰
- 地理情報科学における論文情報および用語集を用いた主題の特
徴化
小野 雅史, 柴崎 亮介
- 空間乖離構造を評価する新たな手法の提案
貞広 幸雄, Seong-Yun Hong

14:30-16:10 C-3: 移動(1)

- データ同化手法を用いた集計データによる都市圏レベルの人の
流動推定
戸井田 亮祐, 関本 義秀, 金杉 洋, 樫山 武浩,
柴崎 亮介
- 遺伝的アルゴリズムを用いた地震災害下における避難経路探索
法の開発
志村 雄一郎, 山本 佳世子

- GIS を用いたリアルタイムの出入港船舶支援システムの基礎的研
究
柳 馨竹, 塩谷 茂明, 笹 健児

- 商圏の何が小さくなったのか? - 「人の流れデータ」から見た
小商圏下の買物行動 -
鈴木 英之, 関本 義秀

- データ同化手法を用いた屋内の人の流動推定に関する研究
樫山 武浩, 金杉 洋, 関本 義秀

16:20-18:00 C-4: 移動(2)

- 2 地点間徒歩移動時における経路選択記述モデル
田中 あずさ, 大佛 俊泰
- CDRs データを用いたダッカの人の流動把握
長谷川 瑠子, 関本 義秀, 金杉 洋, 新井 亜弓,
Teerayut Horanont, Apichon Witayangkurn
- GPS データを用いた災害時の目的地や経路の選択に関する行動分
析
若生 凌, 関本 義秀
- 携帯電話の GPS ログデータを用いた人々の行動パターンの分類
西村 隆宏, 秋山 祐樹, Teerayut Horanont,
柴崎 亮介, 関本 義秀
- 大規模災害発生時における徒歩帰宅グルーピング手法の提案
森田 匡俊, 小林 哲郎, 奥貫 圭一

第1日目:10月26日(土) 会場D

9:50-11:10 D-1: システム構築(1)

- 多分野協働のための水循環 GIS プラットフォームの構築
佐藤 裕一, 佐土原 聡
- 自治体の事業推進のための業務支援システムの導入
村崎 充弘, 吉兼 理説, 澤田石 智紀, 山本 武文,
野口 良彦, 下山 奈緒, 栗原 徹, 富田 正裕
- HTML5 を用いた交通事故報告作図システムの開発
根元 裕樹, 奥野 守
- オフライン対応型モバイルGISを用いた津波避難支援システムの
評価 - 北海道小樽市を実験フィールドとして -
深田 秀実, 橋本 雄一, 赤渕 明寛, 沖 観行,
奥野 祐介

11:20-13:00 D-2: システム構築(2)

- 来店イベントの自動取得と共有による飲食店推薦システムの提
案
少路 健太, 木實 新一, 笹尾 知世, 大野 航
- 利用ボタンと周辺環境に基づく場所推薦システムの提案
笹尾 知世, 木實 新一, 大野 航, 少路 健太
- マルチモニタによる没入型3次元景観表示システムの実現に向け
て
藤本 泰裕, 北村 裕介, 曾 鑫, 荒木 俊輔, 碓崎 賢一
- 都市災害情報の共有支援のためのソーシャルメディア GIS の構築
村越 拓真, 山本 佳世子
- 試験運用を踏まえた野外調査記録作成支援ソフトウェアの機能
強化
原田 豊, 齊藤 知範, 山根 由子, 細田 耕一, 雨宮 護

14:30-16:10 D-3: システム構築 (3)

- GIT 教育支援ツール (gittok) の開発
太田 守重
- GIS を活用した鉄道沿線設備管理手法の構築
丸本 広志, 北岡 栄一, 徳田 浩一郎, 長船 秀樹,
中山 忠雅, 谷 睦晃
- 列車の混雑情報に基づく参加型行動シナリオ推薦システムの提案
大野 航, 木實 新一, 笹尾 知世, 少路 健太
- 道路維持管理の現場利用を考慮した道路情報プラットフォームの設計と実装
坂本 大介, 窪田 論, 市川 尚, 阿部 昭博
- 道路管理用情報共有プラットフォームの構築
小原 弘志, 増田 祐介, 今井 龍一

16:20-18:00 D-4: ネットワーク空間分析

- ソーシャルメディアを利用した鉄道ネットワークに基づく景観資源の評価と発見
中嶋 俊輔, 吉川 眞, 清水 智弘, 中山 忠雅
- ネットワーク上における柔軟な形状を持つ点事象集積領域の抽出法提案
井上 亮, 古郡 美佳
- 地域ベースのデータをネットワークベースのデータにGIS環境下で変換する手法とその適用例
森岡 渉, 岡部 篤行
- ネットワークボロノイによる北海道太平洋沿岸地域の積雪期津波避難圏に関する空間分析
橋本 雄一

第1日目: 10月26日(土) 会場 E

9:50-11:10 E-1: 自然・環境 (1)

- 日本列島の流域区分と中央分水嶺の抽出 —中央分水嶺ロングトレイル構想に向けて—
原 雄一, 片山 篤
- 地形プロセスモデルによる山地流域の分類手法の検討
池見 洋明
- 空間情報を伴った農業情報の流通と利用 —情報利用者の視点からの一考察—
川向 肇, 加藤 雅宣
- 正規化植生指数を用いた人口と緑被との関係性に関する研究
小林 優介

11:20-13:00 E-2: 自然・環境 (2)

- 都市域における植生景観の立地特性に関する研究
宮本 慧, 田中 貴宏, 大野 啓一, 佐藤 裕一, 佐土原 聡
- 高層ビル群による海風の阻害がヒートアイランド現象に及ぼす影響の評価
指山 昇太, 山本 佳世子
- 土地利用の変遷と自然災害リスクの変化に関する研究
月原 雅貴, 三谷 泰裕, 池見 洋明, 村岡 直紀
- XバンドMPレーダ雨量情報のWebGISへの活用
西尾 雅弘, 森 正寿
- チリウン・チサダネ川流域における土地利用変化と地形条件との関係
山下 亜紀郎

GISA-NL No.87(2013/8/30)

14:30-16:10 E-3: 自然・環境 (3)

- タシケント地域におけるGISを活用した水マネジメントに関する研究
森田 淳史, 三谷 泰浩, 池見 洋明, Khurshidbek Makhmudov
- オオワシ・オジロワシによる海からの栄養物質輸送
松本 経, 高橋 修平, 中山 恵介
- 圃場情報管理システムとしての地理情報システムの活用について
藪西 史丈, 川向 肇, 鷺尾 信彦
- 火山露頭情報データベースのためのメタデータ編集ツールの開発
高橋 伸弥, 奥村 勝, 鶴田 直之
- ランドスケープ特性評価の視点から見た日本の地域特性区分
芮 京祿, 小荒井 衛, 水内 佑輔, 野嶋 太智

16:20-18:00 E-4: 可視化

- Twitter を対象とした時空間キーワード抽出と地域間の類似性の視覚化
藤田 秀之
- Spatio-temporal analysis of physical interactions derived from a social network site
Tetsuo Kobayashi
- 新型インフルエンザ流行時における学校閉鎖措置の時空間的パターン: 2009-2010 年シーズンの茨城県における公立小中学校の学校閉鎖措置に注目して
永田 彰平, 中谷 友樹
- ソーシャルメディアを用いた景観現象の分析 —大名庭園における試み—
大野 陽一, 吉川 眞, 田中 一成
- 地理空間情報との関連でみた空間的思考力の構成とその規定因
若林 芳樹

第1日目: 10月26日(土) 会場 F

9:30-11:10 F-1: 防災 (1)

- 何月何曜日何時限に大地震が発生した場合の大学キャンパス帰宅困難学生の概数推定方法
岡部 篤行, 岩沢 愛, 杉浦 勢之
- 積雪寒冷地におけるGPSを援用した津波避難に関する行動分析 —北海道釧路市を事例として—
奥野 祐介, 橋本 雄一, 深田 秀実
- 東京都帰宅困難者対策条例のもとでの帰宅意思率の推定
濱田 時彦, 大佛 俊泰
- 津波被災地における集団移転による暮らしへの影響の評価 —宮城県気仙沼市を事例として—
金森 貴洋, 吉次 翼, 巖 網林
- 津波避難評価シミュレーションの開発と地域防災活動への導入
畑山 満則, 中居 楓子

11:20-13:00 F-2: 自治体・市民参加

- 京都地籍図を用いた京都市における大正期との地価分布変動
青木 和人, 武田 幸司, 伊東 大悟
- 参加型 GIS 向けトレーニングキットの日本での適用可能性
山下 潤

- CKAN と Web マップを用いた多様なデータと活用事例を提供するプラットフォームの試作 -アーバンデータチャレンジ東京 2013 を事例に -

瀬戸 寿一, 榎山 武浩, 関本 義秀, 西沢 明

- 参加型 GIS における GIS 活用の心理的側面に関する考察

今井 修

14:30-16:10 F-3: データベース構築(1)

- 2010 年国勢調査小地域統計のオープン・アトラスの作成・公開
佐谷 岳穂, 矢野 桂司, 中谷 友樹, Alex Singleton, Christopher Brunsdon

- Mapping the surface temperature change in Hokkaido from 1950-2000

Shenyan Zhang, Wangling Yan

- 人々の流動再現へ向けたオープンな鉄道インフラデータの構築
金杉 洋, 関本 義秀, 榎山 武浩

- 広域地震災害の被害想定のための日本全土における建物単体データの開発

小川 芳樹, 秋山 祐樹, 仙石 裕明, 柴崎 亮介

- 全国町丁字変遷データの構築と防災応用

角本 繁, 小西 純, 古戸 孝

16:20-18:00 F-4: データベース構築(2)

- MMS 点群データを対象とした 3 次元プリントシステムの実現に向けて

中條 雅裕, 北村 裕介, 曾 鑫, 荒木 俊輔, 碓崎 賢一

- デジタル電話帳データを用いた店舗・事業所の時系列データ構築と分析手法の研究

水野 弘規, 秋山 祐樹, 柴崎 亮介

- データ活用のためのメタ情報を考慮した地理情報システム向けデータベースの提案

奥村 勝, 高橋 伸弥, 鶴田 直之

- 官民連携による大縮尺道路地図の整備・更新手法の取り組み

今井 龍一, 深田 雅之, 重高 浩一

- 道路基盤地図情報の試行提供による産学の利用ニーズの調査

今井 龍一, 松井 晋, 重高 浩一, 佐々木 洋一

第 2 日目: 10 月 27 日(日) 会場 A

9:00-10:40 企画セッション (4): 学生必見! オープンデータで本気で日本を動かそうとしてる奴ら—起業家から元役人まで—

オーガナイザー: 嘉山 陽一

2009 年のオバマ政権による政策やティム・バーナーズ＝リーの TEDTalk が端緒となったオープンデータは、日本においても「世界最先端 IT 国家創造(案)」や G8 サミットの「オープンデータ憲章」合意など大きな潮流になりつつある。

オープンデータには空間情報分野およびこれらの膨大なデータを通して、地域の問題解決を試みる若きプレイヤーが必須となる。

そこで本セッションは、日本におけるオープンデータへの道筋をこれまで支えてきた仕掛け人が集結し報告を行い、後半にはフロアの学生と共に地域の問題解決に向けたオープンデータの活用アイデアについてディスカッションを行う。

オープンデータで日本を変えたいと思う学生はぜひご参加を!

10:50-12:30 企画セッション (5): オープンデータと自治体 GIS オーガナイザー: 青木 和人

行政内部の施設管理業務の効率化等を主体として進められてきた自治体 GIS は、WebGIS の登場により自治体の地域情報発信のプラットフォームも担うようになった。

現在、再利用・再配布が可能な行政情報を提供するオープンデータ施策が国主導により進められている。

今後の自治体 GIS には、オープンデータによる双方向の情報連携のためのプラットフォームとしての役割が期待される。

自治体 GIS においてオープンデータを活用するには、パッケージ化された事務ツールではなく GIS の本質的機能である空間情報の編纂、視覚化、分析、統計処理などの機能と、それらの機能を駆使できる人材の育成が急務である。

本セッションでは、これまで自治体 GIS が担ってきた役割をふり振り返り整理した上で、オープンデータの展開を前提とした、今後の自治体 GIS が負うべき役割や課題について、独自取材映像等を交えたパネルディスカッションを行う。

13:40-15:40 企画セッション (6): 産学連携によるマイクロ ジオデータの普及と利活用の可能性 オーガナイザー: 秋山 祐樹

我々は「マイクロジオデータ研究会」と呼ばれる研究会を発足させ、これまでにマイクロジオデータの普及と利活用について産官学の有識者を中心に議論を行って来た。

「マイクロジオデータ」とは「ビッグデータ」の一種であり、位置情報や時間情報を持つビッグデータの総称のことを言う。

例えばこれまでも利用されてきた、デジタル住宅地図や電話帳のような空間的精度と網羅性が非常に高いデータや、近年利用可能になりつつある、モバイル統計、GPS ログ情報、Web から収集出来る情報など加工余地が高いミクروسケールの非集計データのことを言う。

既存の各種統計データでは実現し得なかった時空間的にきめ細やかな計画・解析等への利活用が期待されている。

本セッションでは昨年に引き続き本研究会の紹介を行うとともに、マイクロジオデータを用いた研究を行っている研究者による研究紹介や、今後マイクロジオデータの利活用が期待される領域の実務者などによる講演が行われる予定である。

今年は「産学連携」をテーマとする。産学連携により現在形になりつつある、あるいは今後発展が期待出来る研究についての講演と、産学の有識者によるパネルディスカッションを予定している。

産学連携によるマイクロジオデータの開発・利活用に関する研究の最先端を知っていただくとともに、研究者同士が持つマイクロジオデータのシーズとニーズを結びつけて活発な議論が交わされることを期待する。

第 2 日目: 10 月 27 日(日) 会場 B

9:20-10:40 B-5: 施設配置(1)

- 通信販売の拡大による競合店舗の均衡配置と非競合店舗の最適配置の変化

小澤 誠明, 岸本 達也

- 逆探索と ZDD を用いた避難所の地域割り当てパタンの列挙

瀧澤 重志, 武知 祥史, 大田 章雄, 加藤 直樹

- 二次保健医療圏における公的医療施設の立地—配分分析: 新潟県上越医療圏の事例

相羽 良寿

□ 周期的人口分布変動と施設配置

鈴木 勉

10:50-12:30 B-6: 施設配置 (2)

□ へき地医療問題に関する医療施設の空間分析

三好 達也, 橋本 雄一

□ 低炭素社会の実現を目指したライフスタイル・空間配置の相互関係モデルの構築

平野 勇二郎, 戸川 卓哉, 藤田 壮

□ 事業所の業種間交代とその立地についてー東京都八王子市を事例としてー

森 博美, 坂本 憲昭, 高橋 朋一

□ 人口減少下でのアクセス系局統合のための随意性を考慮した動的モデル

中山 悠

13:40-15:40 企画セッション (10) : GISCA

オーガナイザー: 太田 守重

GIS 事業分野の担い手として, GIS 上級技術者 (GISE) 資格が注目されつつあるが, 当分野の更なる発展を期すためには, 個々の経験に基づく知見や新たに開発した技術を共有し, 議論する場が欠かせない。また, GISE 資格の有効期限は 5 年間であり, その間に, GIS 分野に対して一定の貢献をすることが義務付けられている。

このような背景のもと, 本セッションは, 資格をもつ発表者には貢献の機会を与え, 参加者には教育の機会を与えることを通じて, 相互研鑽することを目的に, 開催するものである。

また, GISE 資格の取得を目指す人々や興味をもつ人々の参加も歓迎したい。

第 2 日目: 10 月 27 日(日) 会場 C

9:00-10:40 C-5: 商業・経済

□ 詳細な地理情報や WEB から収集したデータを用いた商店街の特性分類

河地 薫子, 秋山 祐樹, 上山 智士, 柴崎 亮介

□ 地域の食料品店分布を考慮した, 買物環境の評価指標とその分析

関口 達也, 貞広 幸雄

□ 千葉県における小売店舗の立地の分析

柴田 弘毅, 高橋 孝明

□ 大規模人流データを用いた商業地域における来訪者数の時系列分析

秋山 祐樹, Teerayut Horanont, 柴崎 亮介

□ 局所空間統計量を用いた日本の経済集積の空間分析

爲季 和樹, 堤 盛人

10:50-12:30 C-6: データ取得

□ MMS データを用いた建物 3D モデルの壁面生成手法

曾 鑫, 荒木 俊輔, 碓崎 賢一

□ 駅空間におけるサインに着目した屋内測位技術の検討

清水 智弘, 吉川 眞

□ 高層建築物の壁面構造の反復に着目した航空写真からの壁面テクスチャ抽出方式

北村 裕介, 碓崎 賢一, 荒木 俊輔, 曾 鑫

□ Google ストリートビューのパノラマ画像を利用した天空率算出システムの提案

西尾 尚子, 伊藤 史子

□ 3 次元建物モデルの自動生成システムで用いる Straight Skeleton 手法

杉原 健一, 沈 振江

13:40-15:40 C-7: 観光

□ 観光者の関心点に対する空間統計・円周統計の応用

杉本 興運

□ 位置情報付きツイッター投稿データにみるユーザー行動の基本的特徴ー観光行動分析への利用可能性ー

桐村 喬

□ 観光スポットの推薦を目的としたソーシャルレコメンド GIS の構築

池田 宰, 山本 佳世子

□ 観光への空間情報科学の援用ー阿賀町の観光資源を中心にー

波田野 咲希, 杉崎 茜, 山本 靖

□ 観光ポテンシャルマップの信頼性向上に向けてーソースとなる投稿写真データの自動選別ルールの構築ー

倉田 陽平

第 2 日目: 10 月 27 日(日) 会場 D

9:00-10:40 D-5: 地域分析 (1)

□ カーネル密度推定法を用いたソマリア周辺海域における海賊活動の空間分析

永田 康宏, 渡部 大輔, 鳥海 重喜

□ パーソントリップデータを活用した対人犯罪の地域別・時間帯別被害リスクの推定

雨宮 護

□ 地下公共空間における歩行者の滞留行動と空間構造の関係

松尾 佳津史, 田中 一成, 吉川 眞

□ 神戸・北野界隈の地域分析

仲谷 恭平, 吉川 眞, 田中 一成

□ 街頭防犯カメラがひったくりの発生に与える影響

島田 貴仁

10:50-12:30 D-6: 地域分析 (2)

□ 太陽光発電導入の経済性評価方法

岩崎 康志

□ 地区特性と居住者ミックスの関係に関する分析

上杉 昌也, 浅見 泰司

□ 水道栓の開栓状況に基づいた建物分布の広域的な分析

小松 誠直, 熊谷 樹一郎, 大谷 由紀子, 杉山 茂一

□ GIS 分析による人口変化からみる上海市の都市開発

任 海

□ 居住者属性と土地被覆情報を用いた建物用途を含む土地利用把握

相 尚寿, 貞広 幸雄

13:40-15:40 D-7: 地域分析 (3)

□ 女性医師の地域的分布とキャリア支援に関する研究

鳥山 芳織, 落合 豊子, 関根 智子

□ 時空間的街区特性から見た住宅用太陽光発電導入ポテンシャルの評価

小林 知記, 巖 網林, 仙石 裕明

- 出生順位別にみた子育て世帯の居住地分布－三大都市圏での比較から－

佐藤 将

- 東京都心におけるマンション需給の波及に関する空間的分析
川向 肇, 岩場 貴司
- 都市計画区域における土地利用・建物の用途規制と居住構造の関係 ―国勢調査小地域集計による分析―

草野 邦明

第2日目:10月27日(日) 会場E

9:00-10:40 E-5: データ精度(1)

- 建物築年数の推定に関する研究
池田 健虎, 仙石 裕明, 秋山 祐樹, 柴崎 亮介
- 小地域における将来人口推計手法および世帯構成の最適分配に関する研究
仲宗根 悠馬, 秋山 祐樹, 仙石 裕明, 柴崎 亮介
- 固有ベクトル空間フィルタリングを用いて空間的依存性を考慮した多項離散選択モデル
吉田 崇紘, 堤 盛人
- 地理空間情報の平面位置正確度の評価
小清水 寛, 村上 真幸
- 混雑度の精度検証方法に関する基礎検討
坂本 憲昭, 森 博美, 長谷川 普一

10:50-12:30 E-6: データ精度(2)

- 線分検出による建物ポリゴンデータの生成
仙石 裕明, 池田 健虎, 秋山 祐樹, 柴崎 亮介
- グリッドモデルによる町丁字別人口の面補間
小西 純
- 不完全な追跡データに基づく移動経路と滞在時間の確率的推定手法の検討
島崎 彦人
- メッシュ統計データに対する測地系変換における変換誤差の地域的傾向
阪田 知彦

13:40-15:40 E-7: データ精度(3)

- オンライン上のコラボレーションを利用したオープンストリートマップ上の地理情報の充実
関 治之, Daniel Kastl, 金杉 洋, 関本 義秀
- 東日本大震災時におけるメディア情報・地域 SNS・Twitter による情報空白域の空間精度の評価
酒井 聡一, 後藤 真太郎, 小川 祐樹, 山本 仁志, 和崎 宏, 鳥海 不二夫, 五味 壮平, 吉田 等明
- Assessing the accuracy of satellite-derived land cover maps classified using a hybrid pixel-based and object-based image analysis technique
Ronald Estoque, Yuji Murayama, Chiaki Mizutani
- 遺構情報モデルにおける不確かな時間属性の取り扱いについて
村尾 吉章, 碓井 照子, 森本 晋, 清水 啓治, 清野 陽一, 藤本 悠, 玉置 三紀夫

第2日目:10月27日(日) 会場F

9:20-10:40 F-5: 防災(2)

- 「防災に役立つ情報GIS」の有効性についての研究
荒川 宏, 市橋 利裕, 田所 健二, 江崎 伸一, 野田 康司
- オープンソース GIS を用いた被災情報共有システムの提案
窪田 論, 松村 一保, 矢野 定男, 北谷 龍弥, 徳永 隆行, 崎山 良三, 北川 育夫
- 高等学校地理Aにおける GIS を活用した防災教育教材提案―東京都西東京市を事例として―
辻谷 栄里
- 災害の視点から見た日本の地理的地域特性区分
小荒井 衛, 中埜 貴元, 芮 京祿

10:50-12:30 F-6: 防災(3)

- 大地震時における道路閉塞情報の獲得が緊急車両到着時間短縮に及ぼす影響
廣川 典昭, 大佛 俊泰
- 住民ワークショップによる SWOT 分析と震災復興計画の策定の試み
巖 網林, 小林 知記, 大場 章弘, ウィリアム ガロウエイ, 中田 健太郎, 池下 智之, 村杉 汐音
- 地理空間情報の分散相互運用による実践的な子ども防災教育
李 泰榮, 田口 仁, 白田 裕一郎, 須永 洋平, 半田 信之, 長坂 俊成
- 地域防災を支援する情報システム「地域防災キット」の開発
田口 仁, 李 泰榮, 白田 祐一郎, 長坂 俊成

13:40-15:40 F-7: 防災(4)

- 自動車利用者の時空間分布からみた大地震時の様相に関する考察
沖 拓弥, 大佛 俊泰
- 東日本大震災の津波遡上境界線から得られた岩手県における遡上高の地域特性
柳川 竜一, 堺 茂樹, 越野 修三
- KML を用いた震災復興支援に関する研究
物部 寛太郎, 徳永 幸之
- マクロスケールにおける「津波からの避難のしやすさ」の評価 ―アクセシビリティに基づくエバキュエータビリティ指標の構築と測定―
田中 耕市, 駒木 伸比古, 貝沼 恵美

第1,2日目:10月26日(土), 27日(日) ポスター会場

ポスターセッション

- 通学路における不安箇所データの取得と活用
王尾 和寿, 温井 達也
- 高知県の施設園芸を対象としたクリーニングクロープによる潜在的窒素回収量の推算
松岡 真如, 藤原 拓, 永禮 英明, 前田 守弘, 山根 信三, 近藤 圭介, 安武 大輔
- 近隣地域の社会経済的状況と生活習慣病リスク要因の関連
中野 裕紀, 北村 明彦, 木山 昌彦, 岡田 武夫, 本庄 かおり, 中谷 友樹, 磯 博康

- 日本庭園を活用した子どもの空間的思考力向上の試み：六義園を対象として
湯田 ミノリ， 雨宮 護， 浅見 泰司， 土屋 萌
- 出生力変動の地域格差とその要因—2005 年と 2010 年の差に着目して—
鎌田 健司， 岩澤 美帆
- アジア高山域における氷河データベースにより評価されたアジアの氷河の空間分布特性について
縫村 崇行， 坂井 亜規子， 谷口 圭介， 永井 裕人，
Damodar Lamsal， 津滝 俊， 小澤 亜紀， 保科 優，
岡本 祥子， 竹中 修平， 大宮 哲， 常松 佳恵，
Phuntsho Tshering， 藤田 耕史
- 建築確認申請データを用いた徳島都市圏における居住環境の評価
伊勢 千尋， 渡辺 公次郎， 近藤 光男
- プローブデータ解析システムの開発とその活用案について
藤井 琢哉， 阿部 清貴， 吉兼 理説， 西方 誠悠，
富田 正裕， 野口 良彦， 村崎 充弘
- 日本アルプスにおける大規模崩壊地・地すべりの分布と地形・地質との関係
齋藤 仁
- Moran の I 統計量の裾野分布に関する一考察
山田 育徳， 岡部 篤行
- 迅速測図の GIS 解析手法の確立とインターネット公開による新たな活用の発見
D. S. Sprague， 岩崎 亘典
- 地域間による生活保護率差異の要因と空間分析
村上 和隆， 高橋 孝明
- グランドデータを利用した住宅やビルの高さの推定について
中谷 剛
- 古地図とモバイル端末を用いた地域学習支援アプリケーション—近世後期の鳥取城下町を題材に—
塚本 章宏， 柴田 祐， 来見田 博基， 高橋 徹，
鳴海 邦匡
- 広島県における人口動態の地域的特徴に関する研究—集約型都市構造検討へ向けた基礎的分析—
畑森 翔紀， 田中 貴宏， 稲地 秀介
- GIS を用いたリアルタイムの出入港操船支援システムの基礎的研究
Shinichi Ryu， 塩谷 茂明， 笹 健児
- HTML5 を用いた交通事故報告作図システムの開発
根元 裕樹， 奥野 守
- 列車の混雑情報に基づく参加型行動シナリオ推薦システムの提案
大野 航， 木實 新一， 笹尾 知世， 少路 健太
- 日本列島の流域区分と中央分水嶺の抽出 —中央分水嶺ロングトレイル構想に向けて—
原 雄一， 片山 篤
- ランドスケープ特性評価の視点から見た日本の地域特性区分
Kyungrock Ye， 小荒井 衛， 水内 佑輔， 野嶋 太智

- 利用ボタンと周辺環境に基づく場所推薦システムの提案
笹尾 知世， 木實 新一， 大野 航， 少路 健太
- Google ストリートビューのパノラマ画像を利用した天空率算出システムの提案
西尾 尚子， 伊藤 史子
- 地域防災を支援する情報システム「地域防災キット」の開発
田口 仁， 李 泰榮， 臼田 祐一郎， 長坂 俊成
- 通信販売の拡大による競合店舗の均衡配置と非競合店舗の最適配置の変化
小澤 誠明， 岸本 達也
- 携帯電話の GPS ログデータを用いた人々の行動パターンの分類
西村 隆宏， 秋山 祐樹， Teerayut Horanont，
柴崎 亮介， 関本 義秀
- 詳細な地理情報や WEB から収集したデータを用いた商店街の特性分類
河地 薫子， 秋山 祐樹， 上山 智士， 柴崎 亮介
- 時空間的街区特性から見た住宅用太陽光発電導入ポテンシャルの評価
小林 知記， 巖 網林， 仙石 裕明
- 人々の流動再現へ向けたオープンな鉄道インフラデータの構築
金杉 洋， 関本 義秀， 樫山 武浩
- 試験運用を踏まえた野外調査記録作成支援ソフトウェアの機能強化
原田 豊， 齊藤 知範， 山根 由子， 細田 耕一，
雨宮 護
- 高等学校地理 A における GIS を活用した防災教育教材提案—東京都西東京市を事例として—
李谷 栄里
- Mapping the surface temperature change in Hokkaido from 1950-2000
Shenyan Zhang， Wangling Yan
- 地形プロセスモデルによる山地流域の分類手法の検討
池見 洋明
- 災害の視点から見た日本の地理的地域特性区分
小荒井 衛， 中埜 貴元， 芮 京祿

第1日目:10月26日(土) ハンズオン会場

11:20-13:00 ハンズオンセッション (1): 都市計画と FOSS4G
オーガナイザー・講師: 馬場 美彦

2008 年に国土交通省によって発行された「都市計画 GIS 導入ガイドダンス」によりますと、都市計画分野における GIS の導入は、まだまだ限定的であると言わざるをえません。

人口 100 万以上の自治体においては、GIS は 90.0%導入されていますが、全体では 9.6%にすぎません。

地図の作成・出力の業務に最も多く利用され (24.4%)、続いて都市計画制限等の閲覧・照会 (14.0%)、計画立案支援 (13.5%)、図書作成 (13.0%)、分析・シミュレーション (10.4%)、台帳等の情報管理 (10.2%) 等に利用されています。

これまで地方自治体と関わってきたなかで、GIS データをまったく保有していない自治体は皆無でした。

その一方で、多くの台帳は紙ベースで管理されており、住宅地図に印をつけ、別の台帳では住宅地図のページ番号を記入しておく、といった使い方をしています。

このような管理をしている人たちに、データを QGIS 上にプロットして、その下にウェブ地図などを重ね合わせると、その使い勝手のよ

さにみな驚きます。しかも、それがすべてフリー&オープンソースソフトウェア (Free and Open Source Software, FOSS) で行えるのです。

しかし、これらのツールが簡単ではないことも事実です。

本ハンズオンでは、都市計画やその関連分野における FOSS ツールの使い方の基礎を習熟することを目的として開催します。

参加希望者は予め講師：馬場美彦 (Fink Project, E-mail: babayoshihiko@mac.com) 宛に参加申し込みを行って下さい。参加者は、各自 PC を持参して下さい。

第 2 日目: 10 月 27 日(日) ハンズオン会場

11:50-12:30 ハンズオンセッション (2): Python で GIS

オーガナイザー・講師: 小林 哲郎

Python はオープンソースのオブジェクト指向スクリプト言語です。ESRI 社が提供する ArcGIS のジオプロセッシングツール群は Python スクリプトを用いて扱うことが可能であり、Python を利用した GIS データの処理、データ分析、空間モデル作成などへの応用が盛んに行われています。

本セッションでは、Python を ArcGIS 上で扱うための基本的な手順を紹介し、簡単なスクリプトを作成していただくことで Python の利用方法を広く知っていただくことを目的とします。

参加希望者は予め講師：小林哲郎 (愛知工業大学地域防災研究センター, E-mail: tkobayashi@aitech.ac.jp) 宛に参加申し込みを行って下さい。参加者は、各自 PC を持参して下さい。

■ 第 9 回大会優秀発表賞

学生会員の発表レベルの向上を図る目的で、本年度も「大会優秀発表賞」を設けます。

以下の条件を満たす方が対象となります。

- ・本学会の学生会員であること (2013 年 7 月 15 日までに事務局に入会届が到着した方を含みます。但し、2013 年度までの年会費完納者)
- ・修士号未修得であること (但し社会人学部生、社会人大学院生を除く)
- ・講演発表の発表者であること

受賞候補者は、研究(論文)内容、発表技術の優秀者からセッション司会者が推薦し、学会賞委員会の中に設置される大会発表賞小委員会の議論を経て受賞者を決定します。

受賞者数は特に定めません。

尚、発表受賞者には、賞状を後日送付すると同時に、GISA ニューレター88号に所属・氏名を発表します。

■ 第 2 回ポスターセッション賞

ポスターセッションの質疑応答などの活性化をはかるため、今年度も学会賞を設けます。

審査方法等の詳細については、後日メールニュースや Web 上でお知らせします。

■ 機器展示 (申込順)

【株式会社数理システム】

展示ソフト名称: NUOPT (ニューオプト)

展示概要: 最適化ソフト NUOPT (ニューオプト) のご紹介を致します。

GIS と関連する分野としましては施設配置問題・配送計画問題等、答えを出すのに困難な問題に対して協力をサポート致します。

その他統計解析ツール S-PLUS やデータマイニングソフト Visual Mining Studio, テキストマイニングソフト Text Mining Studio も合わせてご紹介いたします。

【ESRI ジャパン株式会社】

展示名称: ArcGIS 10.2 / ArcGIS Online /

ArcGIS データコレクション

展示概要: ArcGIS の最新バージョン 10.2 (9 月リリース予定) では、情報の可視化、分析、共有がより簡単に幅広い環境で行えるようになり、組織の地理情報プラットフォームとしてさまざまな場面で活用することができます。

また、ArcGIS Online では、GIS データの共有、編集、検索が可能で、これらを ArcGIS データコレクションとともにデモンストレーションを交えてご紹介致します。

※ 他の出展は、事前登録者に配布するパンフレット (10 月に web にも公開) に掲載してあります。

【委員会報告】

■ GIS 資格認定協会

【太田 守重】

GISCA では、来る 10 月 26、27 日に開催される GISA の年次学術大会において特別セッションを企画しています。7 件の発表があり、その後、発表者を中心としたパネルディスカッションを行う予定です。発表者はすべて有資格者です。

GIS 学会は教育研究機関の皆様もさることながら、官界の皆様や企業関係者が研鑽する場でもあると考えられます。

今回の特別セッションは、研究者の皆様にとっては社会でどのようなことが行われているかを知る機会になりますし、発表者にとっては研究者の方々から新鮮なご指摘をいただく場になるのではないのでしょうか。

日本における GIS の発達史を思い起こすと、この分野で企業が果たしてきた役割は決して小さいものではありません。相互の交流がより活発に行われるようになることを願っております。

セッションの詳細についてはプログラムをご覧ください。皆様のご参加をお待ちしています。

なお、8 月 12 日現在の有資格者数等は以下のとおりです。

GISEE (名誉上級技術者) 数 15

GISE (上級技術者) 数 372

教育認定件数 29

【学会からのお知らせ】

■ 次期一般社団法人地理情報システム学会

代議員募集のお知らせ

【選挙管理委員長 古谷 知之】

現在の代議員の任期が本年 12 月 31 日に満了となるのに伴い、本学会定款第 16 条の定めにより、次期代議員を募集します。

奮ってご応募下さい。なお、代議員への立候補者は正会員に限られます。

また、代議員の定員は、定款第 15 条により 30 名以上 50 名以下と定められています。

立候補者が 50 名を超えた場合には選挙を行います。

次期代議員任期：2014 年 1 月 1 日～2015 年 12 月 31 日

代議員の主な役割：

- ・社員総会への出席（定款 17 条）
- ・理事及び監事への就任（定款 23 条）

他に、委員会活動や大会司会者等をお願いします。

立候補受付期間：2013 年 10 月 15 日（火）～10 月 31 日（木）

応募方法：

- ① 氏名
- ② 所属
- ③ 当学会での活動歴（役職等）、又は抱負（200 文字以内）
- ④ E-mail アドレス
- ⑤ 推薦人氏名と所属（1 名）

以上を記載の上、事務局まで E-mail でご応募ください。

なお、メールの表題は「代議員立候補」でお願いします。

【学会後援行事等のお知らせ】

■ 第15回日韓GIS国際シンポジウム■

毎年開催しております韓国 GIS 学会（KAGIS）との共同シンポジウムは、今年は韓国で開催されます。

日時： 2013 年 10 月 30 日（水）～11 月 1 日（金）

※ 日韓国際セッションは 31 日（木）

※ 懇親会は 30 日（水）

場所： RAMADA PLAZA JEJU HOTEL（済州島）

講演論文提出期限： 2013 年 9 月 30 日（月）

※ 発表者以外で訪韓ご希望の方も、GISA 事務局にご一報ください。先方に参加費無料申請等をいたします。

詳しくは… http://www.gisa-japan.org/news/detail_1067.html

■ 後援 ■ 「GIS コミュニティフォーラム」

主催： ESRI ジャパンユーザ会

会期と会場：

2013 年 9 月 25 日（水）ACU（北海道）、

10 月 4 日（金）ウインクあいち（愛知）、

10 月 16 日（水）梅田スカイビル（大阪）、

10 月 29 日（火）アクロス福岡（福岡）

詳細は… <http://www.esri.jp/events/details/40203/>

■ 後援 ■ 「GIS day in 東京 2013」

主催： 首都大学東京都市環境学部

会期： 2013 年 11 月 23 日（土）

会場： 首都大学東京 南大沢キャンパス

詳細は… <http://www.comp.tmu.ac.jp/gisday/>

【事務局からのお知らせ】

■ 大会事前登録をお勧めします

当日受付より、大会参加費（付講演論文集所収 CD-ROM）は正会員および賛助会員で 500 円、学生会員で 1,000 円、懇親会費は 500 円、安価に設定されています。

当日の混み合う受付を避けて会場に直行できますので、積極的にご利用ください。

なお、9 月 15 日（日）までに申込書を FAX にて事務局へ送信し、銀行振込を済ませた方のみに限ります。

<http://www.gisa-japan.org/conferences/22/>

registrationpt.docx

■ 事務局閉室のお知らせ

学術研究発表大会の開催にともない、10 月 24 日（木）～28 日（月）の間、事務局は閉室となります。メール対応も出来ませんので、ご注意ください。

■ メールニュースへの掲載ご希望の方へ

学会では個人会員を対象に、メールニュースを配信しています。

内容は学会からのお知らせ、関連イベント、公募情報が主ですが、こちらに掲載をご希望の方は、以下の「お送りいただく情報」をご参照の上、事務局までお申し込み下さい。

（ホームページ上でもご案内しております。

<http://www.gisa-japan.org/news/request.html?id=02>）

なお、ニュースの配信は、毎月第 2・第 4 金曜日を目安にしています。

<お送りいただく情報>

イベントの場合

- ・イベント名 ・URL ・日時（年は西暦/時間は 24 時間表記）
- ・会場名 ・主催

お知らせの場合

- ・タイトル ・URL ・内容は 200 文字程度

公募の場合

公募情報の依頼が出来るのは、賛助会員と教育関係の方だけです。

- ・タイトル ・概要、分野 ・機関名 ・所属
- ・職名 ・URL（詳細情報）

■ 会議の場所をご提供します

分科会（SIG）、委員会、支部など、学会活動に関することで会議をしたいが場所が無い…という方は、事務局までお申し出ください。事務局が入居している学会センタービルの地下に、貸会議室があります。予約制ですので、お早目にお問い合わせください。

料金：無料

時間：月曜日から金曜日の 10：00～17：00

注意：インターネットのご利用は出来ません

2013 年 7 月末現在の個人会員 1293 名、 賛助会員 66 社

賛助会員

(2口) NTTタウンページ(株)

(1口) アイエニウェア・ソリューションズ(株), アクリーグ(株), 朝日航洋(株), アジア航測(株), いであ(株), (株)インフォマティクス, ESRIジャパン(株), 愛媛県土地家屋調査士会, 応用技術(株), 大阪土地家屋調査士会, オートデスク(株), (株)オオバ, (株)かんこう, 関東甲信越東海GIS技術研究会, (財)岐阜県建設研究センター, 九州GIS技術研究会, 協同組合くびき野地理空間情報センター, 近畿中部北陸GIS技術研究会, (株)こうそく, 国際航業(株), 国土情報開発(株), (株)古今書院, 寿精版印刷(株), GIS総合研究所いばらき, (株)GIS関西, ジェイアール西日本コンサルタンツ(株), (株)JPS, (株)ジオテクノ関西, (株)ジオプラン, (株)昭文社, (株)ジンテック, (株)数理システム, (株)ゼンリン, (株)谷澤総合鑑定所, 玉野総合コンサルタント(株), 中四国GIS技術研究会, テクノ富貴(株), 東北GIS技術研究会, (株)ドーン, 内外エンジニアリング(株), 長野県GIS協会, にいがたGIS協議会, 日本エヌ・ユー・エス(株), 日本情報経済社会推進協会, 日本スーパーマップ(株), (財)日本測量調査技術協会, 日本土地家屋調査士会連合会, (財)日本地図センター, パシフィックコンサルタンツ(株), (株)パスコ, 東日本総合計画(株), 北海道GIS技術研究会, (株)マップクエスト, (株)松本コンサルタント, 三井造船システム技研(株), (株)三菱総合研究所, 三菱電機(株), ヤフー(株), (財)リモート・センシング技術センター

自治体会員: (1口) 大阪府高槻市役所, 大阪府豊中市役所, 経済産業省特許庁, 総務省統計局統計研修所, 長野県環境保全研究所, 福岡県直方市

学会分科会連絡先一覧

●自治体: 青木 和人 (京都府宇治市) 事務局: 浅野 和仁 (大阪府富田林市 Tel 0721-25-1000) E-mail: helicobacter_ysfh@hera.eonet.ne.jp ●ビジネス: 高阪宏行 (日本大学 Tel 03-3304-2051) E-mail: kohsaka@chs.nihon-u.ac.jp ●防災GIS: 畑山満則 (京都大学防災研究所 Tel 0774-38-4333) E-mail: hatayama@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp ●土地利用・地価GIS: 碓井照子 (奈良大学) 事務局: 西端憲治 ((株)セイコム Tel 0721-25-2728) E-mail: totiriyo-sig@seicom.jp	●時空間GIS: 吉川耕司 (大阪産業大学 Tel 072-875-3001) E-mail: yoshikaw@due.osaka-sandai.ac.jp ●地図・空間表現: 森田 喬 (法政大学 Tel 0423-87-6270) E-mail: morita@k.hosei.ac.jp ●セキュリティSIG: 川添博史 (特定非営利活動法人GIS総合研究所) 事務局: 国司輝夫 (特定非営利活動法人GIS総合研究所 Tel 06-6464-7077) E-mail: info@gissoken.org ●自律分散アーキテクチャ: 藤田晴啓 (新潟国際情報大学 Tel 025-239-3753) E-mail: fujita@nuis.ac.jp ●FOSS4G分科会: Venkatesh Raghavan (大阪市立大学) 連絡先: 嘉山陽一 (朝日航洋(株) TEL049-244-4032) E-mail: youichi-kayama@aeroasahi.co.jp
--	--

地方支部の連絡先一覧

<北海道支部> 支部長: 北海道大学 橋本 雄一 Tel: 011-706-4019, E-mail: you@chiri.let.hokudai.ac.jp <東北支部> 支部長: 岩手県立大学 阿部 昭博 Tel: 019-694-2562, E-mail: abe@iwate-pu.ac.jp <北陸支部> 支部長: 新潟大学 牧野 秀夫 Tel: 025-262-6749, E-mail: makino@ie.niigata-u.ac.jp <中部支部> 支部長: 名古屋大学 奥貫 圭一 Tel: 052-789-2233, E-mail: nuki@lit.nagoya-u.ac.jp <関西支部> 支部長: 大阪工業大学 吉川 眞 連絡先: 田中 一成 (大阪工業大学) Tel: 06-6954-4293, E-mail: gisa@civil.oit.ac.jp	<中国支部> 支部長: 広島工業大学 岩井 哲 Tel: 082-921-5486, E-mail: s.iwai.i5@it-hiroshima.ac.jp <四国支部> 支部長: 香川大学 野々村 敦子 Tel: 087-864-2146, E-mail: nonomura@eng.kagawa-u.ac.jp <九州支部> 支部長: 九州大学 三谷 泰浩 Tel: 092-802-3399, E-mail: gisaku@doc.kyushu-u.ac.jp <沖縄支部> 支部長: 琉球大学 宮城 隼夫 E-mail: miyagi@ie.u-ryukyu.ac.jp 連絡先: 有銘 政秀 ((株) ジャスミンソフト) Tel: 098-921-1588, E-mail: arime@jasminesoft.co.jp
--	--

■ 編集後記 ■

今年の夏は、局地的豪雨や記録的猛暑など例年にもまして自然の脅威に人間の無力さを感じる年となっています。さて、今回の NewsLetter は第 22 回研究発表大会の特集となりました。研究発表や企画セッションなど、日頃の研究成果をお聞きしたいと思います。また、ハンズオンセッションでは、オープンソースである QGIS や Python の基礎部分を体験することができます。様々な情報を交換出来る 2 日間、また皆様と会場でお会いいたしましょう。最終のプログラムは学会 HP で確認下さい。(谷口 彰 (GIS 総合研究所))

地理情報システム学会ニューズレター

第 87 号 ●発行日 2013 年 8 月 30 日

■発行

一般社団法人 地理情報システム学会

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階
TEL/FAX: 03-5689-7955 E-mail: office@gisa-japan.org
URL: <http://www.gisa-japan.org/>

■ 弥生雑記 ■

慶應義塾大学で開催される今年の学術研究発表大会は、東京大学が会場であった 2008 年以来、なんと 5 年ぶりの東京開催です。この間、新潟～京都～鹿児島～広島を巡り、各地で交流を深められたのではないのでしょうか。例年に比べ発表エントリー数は少し減りましたが、それを補って余りある企画セッションがずらりと並び、今回も充実の大会となることを期待しています。

都内開催のため、事務局員も久しぶりに会場の下見に行くことができました。実は、学生時代に入っていたサークルが慶應義塾大学と一緒に活動していたため、毎週 2～5 回の練習とその後の飲み会は田町、三田祭 (学園祭) にも毎年参加していました。里帰り気分で下見に行ったのですが、その変化にはやはり驚かすにはられません。建て直された校舎はもとより、記憶に無い建物もあります。ただ、今大会の主要会場である西校舎は、三田祭で私たちがドーナツを売っていた模擬店の前にそびえ立っていた昔と変わらぬよう…。一方、懇親会場の南校舎は 2011 年に建てられた、三田で最も新しい建物です。双方の良さを、是非、ご堪能下さい。(学会事務局)